

『〈判旨〉から読み解く民法』

(T.H.・30代・法科大学院修了生)

他の科目と比べて、民法の判例学習においては、判旨のみ押さえる方法に留まる傾向にあると思います。もっとも、事案の背景、判例の射程(事案限りの判例なのか、汎用性があるのか)を知ること、問題解答へのアプローチも短時間で確実な方法を探れるようになると思います。また、平成25年司法試験論文試験・民事系第1問のように、判例の射程・関連判例を知らなければ、対応が困難な問題も出題されます。

そこで、重要判例につき、判例の射程・関連判例・問題の背景にある学説の流れが説明されている本書に関心を持ちました。民法判例百選では紙幅の都合上詳細な解説とまで言えず、調査官解説は分量が多すぎる上、発刊後の判例との関係が明らかにならない点で、本書のようなコンセプトの本が非常に有用と思います。

本書の分量は、少し重い気もしますが、全30講という形で重要判例を取り上げて掘り下げる方式になっているため、特に気になる判例テーマだけをピックアップする方法であれば、学習の負担も軽減すると思います。また、各講の最後にDirectionsという形で端的にまとめられており、民法改正との関係も触れられているので、多様な使い方もできるように思います。

『法学教室』2017年10月号(No.445)掲載「Reader's Voice」より